

情報通信研究機構

NICT 先端研究

(237)

IOTはInternet of Thingsの略で「モノのインターネット」と訳されている。IOTの発達により、コンピュータ以外のさまざまな「モノ」がネットワークにつながり、デー

科学技術・大学

タや情報を収集・交換する。映像IoT技術を活用することでカメラは、通常の街全体をスキミングした画像処理により、高解像度画像により、早く伝えられる。魚の目・虫の目・魚の目・魚の目、人や飛行ロボットが移動しながら発信に特化した独自開発の情報システム(GI)の高齢者施設、土砂災害危険地域などの関連情報も連動して取得する。効果的な災害対策決定に寄与する。

鳥の目は映像IoTシステムを山頂やタワーに設置することで、詳細画像取得や災害変化追跡を行う。虫の目は、街中に多数設置できる安価な小型カメラ。映像伝送システムである。これら技術の基盤

(NICT)では、映像パン・チルト機能を活用。個人情報保護に配慮。これらの技術の基盤

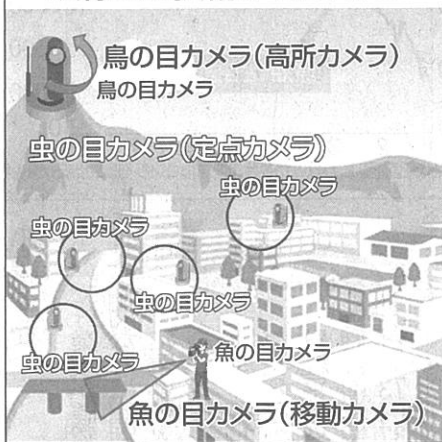
映像IoT、街見守る

ネットワーク研究所・レジリエント ICT研究センター 研究統括 **村田 健史**

京都大学大学院工学研究科 博士後期課程修了。2008年にNICT入所。専門は大規模可視化技術、高速データ通信技術、映像伝送技術およびIoT技術とその融合による国際連携、地域連携。博士(工学)。



映像IoT技術が街を守る



IoT技術で重要な要素の一つが低コスト化だ。高額な映像センサーでは自治体に鳥の目・虫の目・魚の目カメラを限なく配置することはできない。COTS品(民生品)を活用し、データ通信技術や画像処理技術を組み込むことで「映像IoT技術が街を見守る」ことが可能となる。

(火曜日に掲載)

災害がいつ、どこで発生したのかを瞬時に確認できる。さらに近隣